

## ■報告の趣旨

- ・本調査は長期間（R6.11～R8.7）にわたるため、調査対象断層（地震）における県内震度分布の計算を終えたタイミングで、中間報告として公表し、県民の更なる防災意識を高めていただくもの。

## ■調査の方針

これまでの富山県の被害想定は政府地震調査研究推進本部の長期評価で用いる手法（断層モデルの簡略化、評価手法の標準化）を基本



今回の調査では、想定外を避けるため、震度の計算の前提となる断層モデルを個別具体的に設定し、高度に評価。長期評価では実施していない断層の連動ケースも算出。

## ■報告の内容

- ・調査対象断層12ケース（当初から変更なし）のうち、南海トラフを除いた11ケースについて、県内震度分布図を報告。（なお、地震発生確率はボーリング調査等が必要なため県独自には算出していない）

## ■調査結果（震度分布図（250mメッシュ）） ※中間報告のとおり

### <特徴>

- 県内すべての市町村において、震度7の地点あり。
- 特に、「呉羽山断層帯」は富山市、射水市、高岡市に震度7が広く分布（断層の長さが長く、震源断層面は広いことに加え、富山平野は堆積層で地震波が增幅されやすいため）  
「邑知潟断層帯」は、氷見市、高岡市、砺波市、小矢部市、射水市に震度7が分布。
- また、断層の連動ケースでは、「魚津沖+魚津+上越沖+糸魚川沖」は、富山市、滑川市、魚津市、黒部市、入善町、朝日町、舟橋村、上市町、立山町に震度7が広く分布。  
「七尾湾東方+飯田海脚南縁+高岡+砺波平野西部」は、氷見市、高岡市、小矢部市、砺波市、南砺市、射水市に震度7が分布。  
(連動に伴い各区間のエネルギーも大きく、全体的な震度が大きい)
- 県東部の震度はこれまでの県地震被害想定に比べ震度が大きい。（これまでの県地震被害想定は、国の長期評価で地震発生確率が高い県西部の断層に偏っていたため）